

第2学年5組 社会科学学習指導案

2年5組教室 指導者 磯谷 達也

1 単元名 復活！釜石の水産業（東北地方）

2 単元の目標

- (1) 東日本大震災における被災者たちの復興に向けた努力を学び、東北地方の人々の郷土にかける思いを考えることができる。
- (2) 岩手県釜石市の復興に向けた課題や、その解決策について、仲間とかかわりながら根拠をもとに考えることができる。
- (3) 釜石市の震災による被害の状況や復興の現状などについて、資料を収集し適切に読み取ることができる。
- (4) 東北地方の自然や気候、産業や伝統、震災による影響などから、地域的特色や東北地方が抱えている課題について理解することができる。

3 単元の構想

- (1) 生徒にかける教師の願い

本学級は社会科が好きな生徒が多く、積極的に話し合おうとする雰囲気がある。前単元「日本の過疎・過密問題」では、過疎地域や過密地域に住む人々の立場になって、問題点や解決策などについて考えることができた。そこで、本単元「復活！釜石の水産業（東北地方）」では、東日本大震災に被災した人々の努力を知ることにより、東北地方の人々の思いをすすんで考えようとする姿を育てたい。

抽出生Aは、社会科の授業にはとても意欲的に取り組み、自分の考えをすすんで発表することができる。しかし、自分の考えにこだわり過ぎてしまい、友だちの意見を受け入れることができなかった。そこで、本単元において友達やゲストティーチャーの考えにふれることで自分の考えを深めたり広めたりできるようにしていきたい。

- (2) 教材について

東北地方は本州最北に位置し、冷涼な気候やきれいな水を利用した稲作や果樹栽培がさかんである。また、三陸海岸には日本有数の水揚げ量を誇る漁港がいくつかあり、養殖もさかんに行われている。このように、東北地方は、豊かな自然をもとにした第一次産業が主産業の地域である。しかし、人口は新幹線や高速道路の沿線に集中してきているため、農村や漁村では過疎化が進み、産業が弱まりつつある。2011年3月には東日本大震災が発生し、その被害は甚大である。また、過疎化や産業の弱体化などの既存の課題についても、より浮き彫りとなってしまっている。

愛知県西尾市に暮らす子どもたちにとって東北地方は遠くかかわりの浅い地域であるが、震災後、岩手県釜石市には西尾市役所から毎年1人ずつ職員が派遣されている。釜石市は山に囲まれ、平野部に人口が集中していること、リアス海岸に面しカキなどの養殖がさかんであること、過疎化が進んでいることなど東北地方に共通する特色を備えている。西尾市との共通点も多く、東北地方を学習するのに適していると言える。従って、本単元では、釜石市の被災者たちの様子を学習することにより、東北地方の人々の郷土にかける思いを考えさせたい。

- (3) 単元について

つかむ段階では、東北地方の自然や気候、産業や伝統などの地域的特色について理解した後、東日本大震災について学習する。ここでは、映像を視聴したり、被害の大きさを学んだりすることにより関心を再度高める。そして、復興をテーマに課題を設定する。

深める段階では、釜石市の震災前後の様子を比較し、産業の要である水産業の被害が特に大きいことを知る。そして、釜石市の復興のために、水産業が抱えている課題を理解し、それを解決する方法を考えていく。釜石市の水産業が抱えている課題は、震災そのものだけが原因ではなく、過疎化や産業の弱体化などの釜石市の地域的特色も関係している。ここでは、その課題について書籍やインターネットなどを利用して調べたり、釜石市役所や釜石漁協などの方に聞き取ったりした上で、自分なりの課題の解決策を考える。

生かす段階では、東北地方の地域的特色をもとに被災地全域の復興の方法を考える。水産業だけではなく、他の産業の復興について考えることにより、被災地の復興に携わる人々の強い思いを知り、みんなで協力していこうとする態度を育てたい。

4 単元構想図 (14時間完了、本時12/14)

東北地方にはどのような特色があるのか知ろう（4）

教師の支援

つかむ

- 東北地方の自然、気候、産業、伝統などについて理解する。

本州最北に位置し、太平洋側と日本海側では気候の特色は異なるみたいだよ。

山がちな地形で、平野では稲作が盆地では果樹栽培がさかんに行われているよ。

太平洋側ではやませという風が吹いて農業に大きな影響を与えているよ。

三陸海岸沖は漁業がさかんで、養殖もたくさん行われているよ。

伝統的な生活や文化が根付き、お祭りや工芸品もたくさんあるね。

高速道路沿いには工業団地がつくられ、ICなどをたくさん生産しているよ。

高速交通網が整備されていない地域を中心に過疎化が進んでいるよ。

特に岩手・宮城・福島は東日本大震災により大きな被害があったところだね。

- 震災による被害の状況を資料をもとに調べる。

15892人も亡くなってしまったんだね。行方不明者もまだ2574人もいるよ。

福島原発事故により、立入禁止区域になってしまったところもあるよ。

養殖場が流されてしまい、従事者は生活できなくなってしまったみたいだよ。

道路や鉄道は崩れてしまい、他の地域と行き来ができなくなってしまったよ。

関東地方では液状化現象による地盤沈下が見られたところもあるよ。

津波により家が流されてしまい、仮設住宅に暮らす人がたくさんいるよ。

震災から5年が経とうとしているけど、今はどんな様子なんだろう。

岩手県釜石市には西尾市から職員が毎年1人ずつ派遣されているみたいだよ。

岩手県釜石市が復興するためにどうすればいいのだろう

釜石市の復興について考えよう（8）

深める

- 震災前後の釜石市について調べ比較する。

震災前以前は「鉄と魚の町」だったけど、その後「魚の町」に変わっていったよ。

震災前ホタテやカキ、ワカメやホヤなどの養殖をさかんに行っていたんだね。

震災前過疎化が進み、人口が減ってきていた。特に若い年代の人たちが減っていたよ。

震災前釜石市は養殖業や沿岸漁業などの水産業に支えられていたんだね。

震災後亡くなってしまった人や引っ越してしまった人により人口が減ってしまったね。

震災後航空写真を見ると漁港があったところは何もなくなってしまっているよ。

震災後ホタテやカキの養殖場が流され、全く収穫できなくなってしまったよ。

震災後水揚げ高は28億円から16億円にまで減少してしまっているよ。

釜石市を復興させるには産業の要である水産業を復活させないといけないね。

釜石市の水産業は現在どのくらい復興が進んでいるのだろう。

- 東北地方を身近に捉えるために特産物を提示する。
- 東北地方の地域的特色を理解し、位置の感覚を磨くために白地図にまとめさせる。
- 今後、資料から目的に合った情報を獲得できるようにするために、資料の読み取り方を確実に身に付けさせる。
- 震災による被害の大きさを理解しやすくするために、発生時の映像を視聴させる。
- 客観的なデータだけでなく、被災者の気持ちにも目を向けさせる。
- 自分たちとのかかわりを感じるために、西尾市役所から岩手県釜石市に職員が派遣されていることを紹介する。

- 釜石市が復興する方法を考えるために、震災前から抱えていた課題について理解させる。
- 被害の大きさを視覚的に理解するために、震災前と震災後の航空写真を比較する。
- 被災者の苦労について気付くために、水産業の壊滅的な被害が生活にどのように影響したか考えさせる。

深める

- 釜石市の水産業の現状を調べる。

漁港の水揚げ高は16億円から26億円にまで戻ってきているよ。

700隻あった漁船は500隻ぐらいしか動くようになっていないよ。

養殖業も再開はしたけど、元通りにはなっていないみたいだよ。

どうすれば釜石市の水産業は復活することができるのだろう。

- 釜石市の水産業の復活に携わる人たちに聞き取る。

釜石市を支えていくという強い思いをもってがんばっているんだ。

困難にもめげず、諦めずに立ち上がろうとしていてすごいな。

全国の人々の支援があったから、恩返しのためにもがんばっているんだ。

完全に震災前のさかんだった頃のように復活するのは難しいみたいだよ。

- 釜石市の水産業における課題について考える。

水産業に携わる人たちの高齢化や後継者不足が問題だと思う。

安い外国産の商品が入ってきて、高い国産の商品が売れなくなってきた。

過疎化が進み、釜石市から都市部へ人口が流出してしまっている。

経済水域の設定により、遠洋漁業や沖合漁業による漁獲量が減ってきている。

釜石市の水産業を復活させる方法を考えよう（本時）

- 釜石市の水産業における課題の解決策について考える。

西尾市のウナギのように地域ブランドを確立すると思う。

西尾市のえびせんべいみたいに食品加工にも力を入れていけばいいと思う。

震災前はネットによる販売を行っていたみたいなので、もう一度始めるべきだと思う。

釜石市だけでなく三陸ブランドとして近隣の漁港と協力していくと思う。

地産地消を進め、釜石市で獲れたものを消費するようにすればいいと思う。

水産業の関係者だけでなく、釜石市全体で復活に向けて取り組んでいくべきだと思う。

- 目的に合った情報を獲得できるように、図書館の書籍やインターネットを利用する。

- 釜石市の現在の様子を知るために、ライブカメラを視聴する。

- 釜石市の人々の郷土に対する誇りやプライドに目を向けさせる。

- ※抽出生Aに自分の考えにこだわらず柔軟に友達やゲストティーチャーの思いを受け止めるよう指示する。

- 震災前から抱えていた課題が震災により深刻化してしまったことをおさえる。

- 深刻さを理解するために、愛知県や西尾市のデータと比較する。

- 現実的な解決策を見出すために、他地域や西尾市の取り組みなどを参考に考え、釜石市役所や釜石漁協の方に提案し、評価していただく。

生かす

被災地を盛り上げる方法を考えよう（2）

- 東日本大震災の被災地全体を盛り上げる方法を考える。

三陸は水産業がさかんなところだから、漁協が協力していくべきだと思う。

企業を誘致して、工業をさかんにしていけば人口減少を防げると思う。

東北新幹線が開通したので、他地域とのつながりを大切にするべきだと思う。

伝統産業を生かして、特産物を開発していけばいいと思う。

伝統的な生活や文化をアピールして、観光客を増やしていくべきだと思う。

全国の人々が震災のことを忘れずに協力していくことが重要だと思う。

釜石市や東北地方の人々は復興をめざし強い思いをもってがんばっているから、みんなで協力していかなければならない。

- 震災前から抱えていた課題を解決するために、地域的特色をもとに考えさせる。

- 自分にもかかわることができることを理解するために、他地域や全国とのつながりに目を向けさせる。

友達やゲストティーチャーの考えにふれて、自分の考えを見つめ直し深める抽出生A

5 本時の学習（本時 12 / 14）

（1）目 標

- ・釜石市の水産業における課題やその解決策について、友達やゲストの考えにふれ、自分の考えを深めることができる。

（2）過 程

1 釜石市の水産業の課題を確認しよう（5分）

- 釜石市の水産業の課題について確認する。
 - ・水産業に携わる人たちの高齢化や後継者不足が問題。
 - ・過疎化が進み、釜石市から都市部へ人口が流出している。
 - ・安い外国産が入り、高い国産が売れなくなってきた。
 - ・経済水域の設定により、遠洋漁業や沖合漁業による漁獲量が減ってきている。

2 釜石市の水産業の課題に対する解決策を考えよう（20分）

- 釜石市の水産業の課題に対する解決策を話し合う。
 - ・西尾市の一色のうなぎは地域ブランド化しているから、釜石市のホタテやワカメなども地域ブランド化すると思う。
 - ・西尾市はえびせんべいに加工して販売しているから、釜石市でも海産物を加工して販売すればいいと思う。
 - ・震災前はネット販売をしていたみたいだから、いち早く復活させて、遠くの人にも買ってもらえるようにすればいいと思う。
 - ・地産地消を進め、釜石市で獲れたものを消費するようにすればいいと思う。

3 釜石市役所や釜石漁協の方の話を聞こう（10分）

- 生徒の考えに対する評価と復興にかける思いを聞く。
 - ・考えた解決策はもうすでに実行しているらしい。
 - ・財政面の問題もあるし、思い切ったことはできないようだ。
 - ・復興はすぐに完成するものではないため、諦めずに長い目で見て進めていかなければならない。

4 釜石市の水産業の課題の解決策をもう一度考えよう（10分）

- 釜石市役所や釜石漁港の方の話を聞いた上で、再度復興に向けた補法を考え、話し合う。
 - ・全国のみんなで力を合わせて、がんばっていかないといけない。
 - ・自分にもできることを探して、実行していくべきだと思う。
 - ・みんなで案を出し合って、様々な方法を組み合わせて進めていくべきだと思う。
 - ・どれだけ時間がかかるか分からないけど、最後まで諦めずに取り組み続けることが大切だと思う。

5 授業日記を書こう（5分）

- 授業日記を書く。
 - ・復興するためには、みんなで助け合ってがんばっていかないといけない。
 - ・復興に向けて自分にもできることがあるから、実行していこう。
 - ・震災のことを忘れることなく、東北地方のために自分ができることを探そう。

教師のはたらきかけ

- ・震災前から抱えていた課題が、震災により深刻化してしまったことを再度おさえる。
- ・課題について客観的に捉えられるよう、具体的な数値を提示する。

- ・釜石市役所や釜石漁協の方に生徒が考えた解決策を評価していただくために、事前に送付しておく。
- ・分からないことをすぐに聞けるように、釜石市役所や釜石漁協の方にいつでも電話で聞けるようにしておく。

※抽出生Aには自分の考えにこだわらず、友達やゲストティーチャーの考えを柔軟に受け入れるよう助言する。

- ・水産業の復興のために一生懸命がんばる釜石市の人々や、それに協力しようとする人々の存在を振り返り、自分の生活に目を向けさせる。

- ・友達の意見やゲストティーチャーの話を通して気づいたことや感想を、根拠をもとにまとめるよう指示する。

（3）評 価

- ・釜石市の水産業における課題やその解決策について、友達やゲストの考えにふれ、自分の考えを深めることができたか。（発言・話し合いの様子・ワークシート）